



2024年9月期 第1四半期 決算説明資料

株式会社キャンディル

証券コード：1446

2024. 2. 13

- 01 ハイライト
- 02 FY2024.9 Q1 決算概要
- 03 FY2024.9 業績予想
- 04 今後の方針
- 05 Appendix

FY2024.9 Q1
業績ハイライト

売上高 **3,214** 百万円

YoY **106.3%** ↑

営業利益 **64** 百万円

YoY **50.3%** ↓

当期Q1の連結業績は、**増収減益**

売上高

売上高は全てのサービスが堅調に推移、中でも住環境向け建築サービスが全体の売上高を牽引

営業利益

人への投資(従業員の管理職への登用強化、待遇改善など)や、増収に伴う営業活動費用の増加により、営業利益は、前年同期に比べ低水準で推移

02 FY2024.9 Q1 決算概要

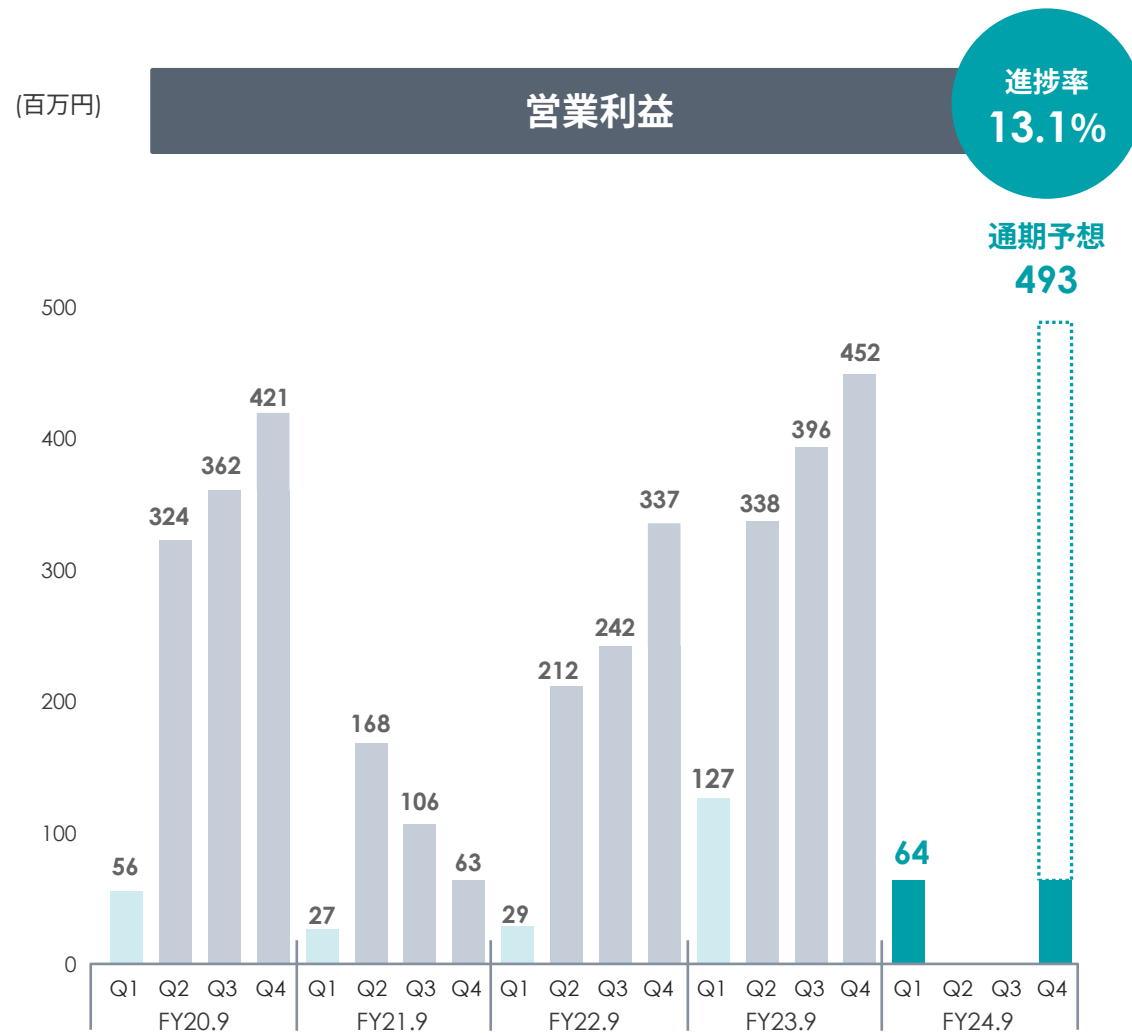
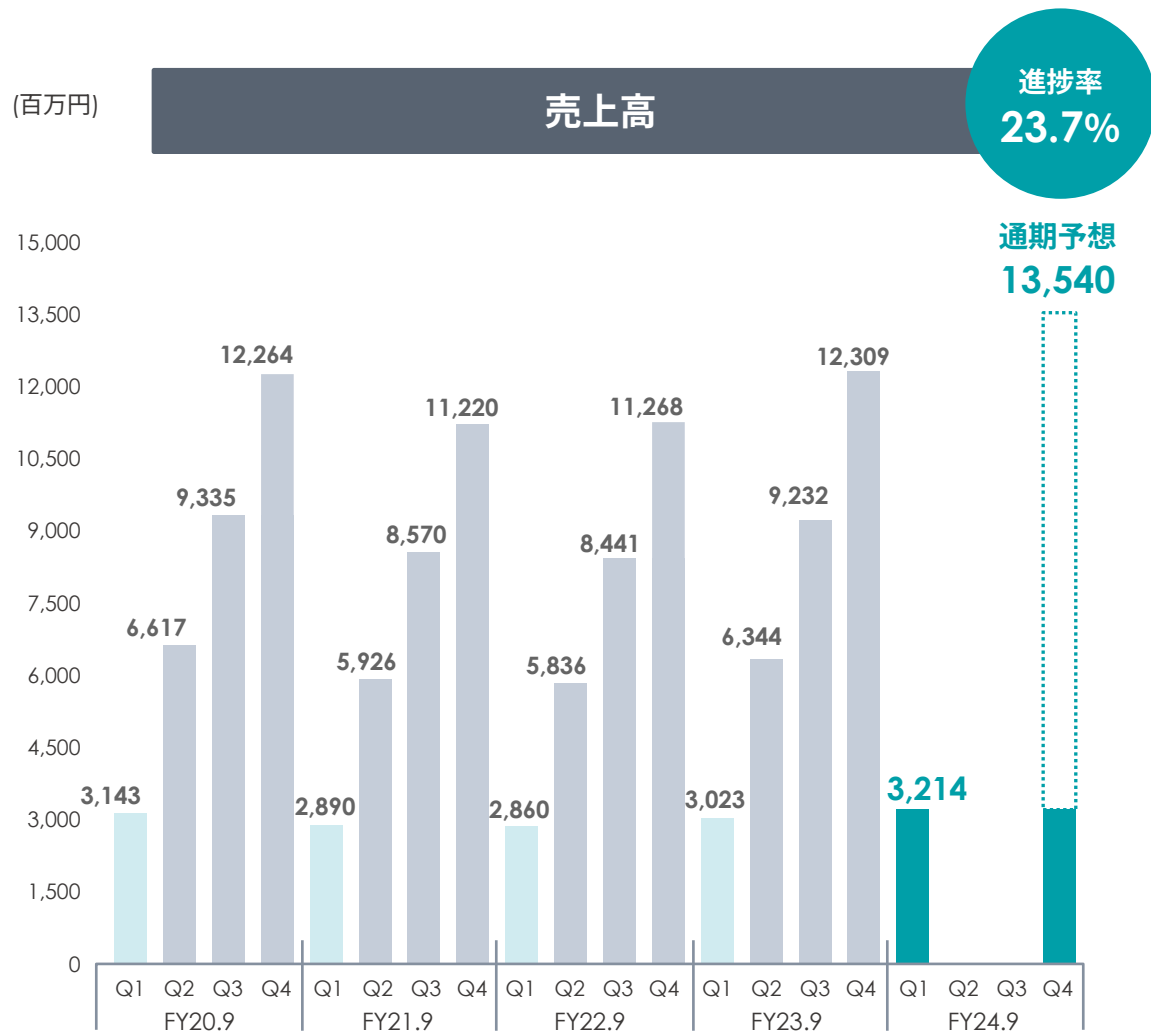
FY2024.9 Q1 連結業績

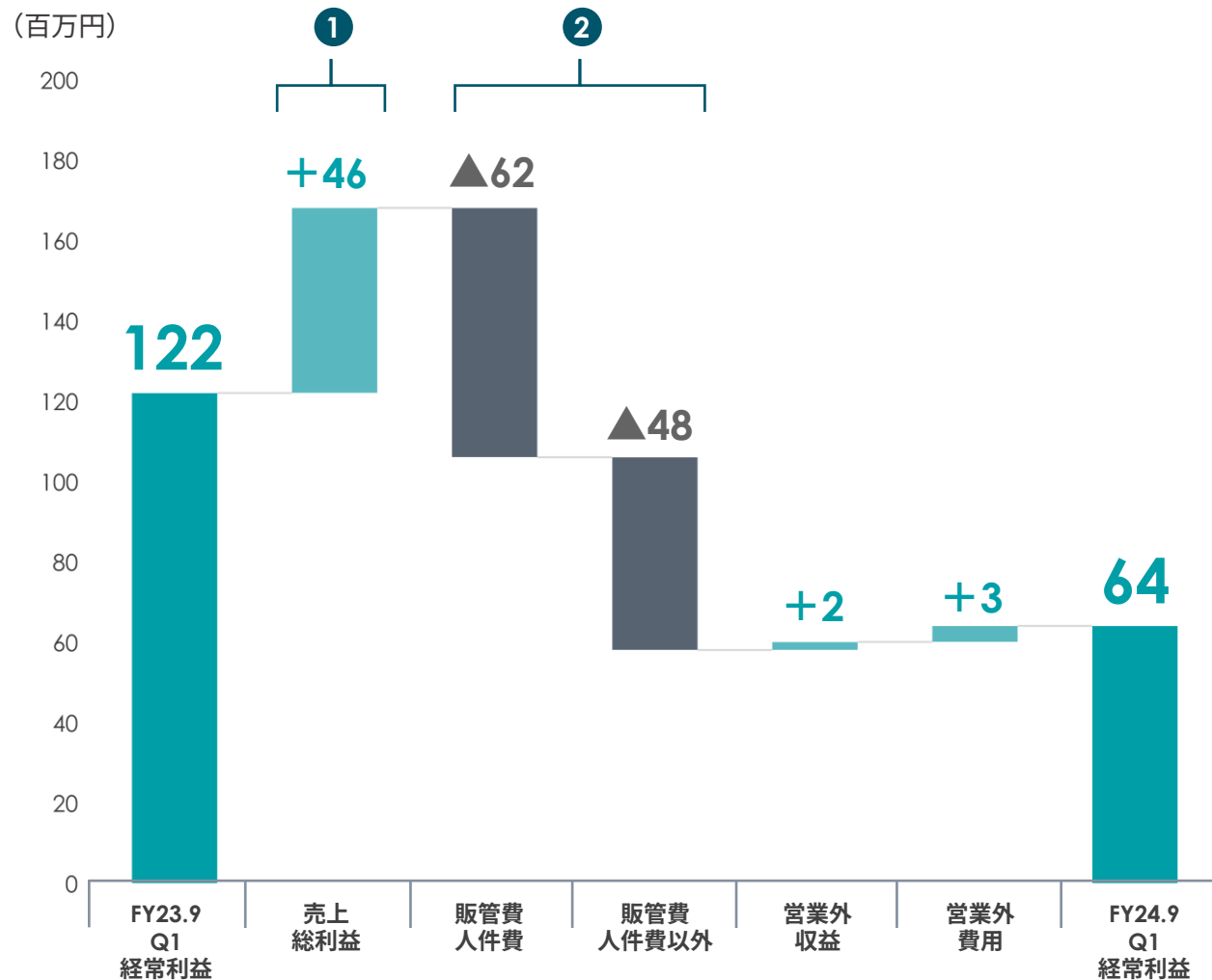
売上高は堅調、各段階利益は前年同期に比べ低水準で推移

(百万円)	FY2023.9 Q1	FY2024.9 Q1	増減額	YoY	通期 業績予想	進捗率
売上高	3,023	3,214	+191	106.3%	13,540	23.7%
リペアサービス	1,105	1,145	+40	103.6%	4,550	25.2%
住環境向け建築サービス ※1	817	940	+123	115.1%	4,010	23.5%
商環境向け建築サービス	939	971	+32	103.4%	4,220	23.0%
商材販売	161	157	▲4	97.5%	760	20.7%
売上総利益	1,098	1,145	+46	104.3%	—	—
売上総利益率	36.3%	35.6%	—	▲0.7pt	—	—
販売管理費	970	1,080	+110	111.4%	—	—
営業利益	127	64	▲63	50.3%	493	13.1%
営業利益率	4.2%	2.0%	—	▲2.2pt	—	—
経常利益	122	64	▲57	52.8%	486	13.3%
四半期(当期)純利益	59	19	▲40	31.8%	230	8.3%
のれん償却前四半期(当期)純利益	107	67	▲40	62.2%	422	15.9%
ROE	2.4%	0.7%	—	—	8.2% ※2	—

※1：2023年9月期より「抗ウイルス抗菌サービス」は「住環境向け建築サービス」に含む形で区分変更しています／前年同期も当該変更後の数値とし、前年同期比を算出しています

※2：2024年9月期のROEは、上記の当期業績予想による予想純資産額に基づき算定しています





主な増減要因

① 売上総利益

住環境向け建築サービスの増収により増加

② 販管費

[人件費] +62百万円

人員増、管理職への登用強化 ※1、
待遇改善による給与の増加

※1 現場力向上を目指し、次世代技術者の
育成体制を強化するために、
リーダー層(管理職)を拡充

[人件費以外] +48百万円

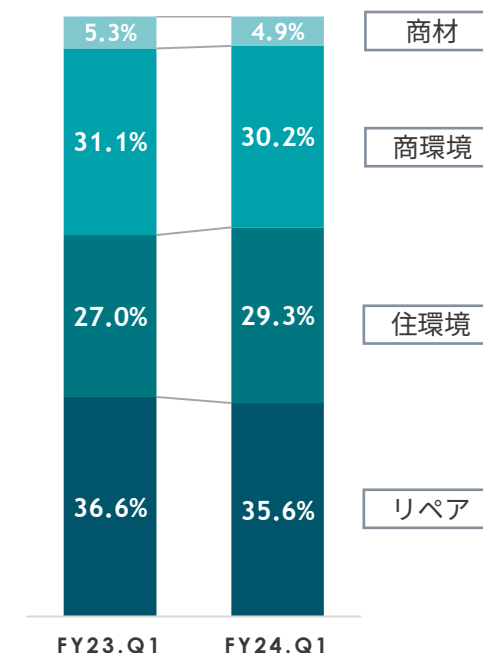
増収に伴う営業活動費用の増加など

サービス区分別 売上高

- ・住環境向け建築サービスは、引渡し前検査(集合住宅)と、水まわりコーティング案件の増加により、Q1としては過去最高の売上高を更新
- ・リペアサービスは「集合住宅向け」が好調、「戸建向け」が前年同期並みで推移し、増収
- ・商環境向け建築サービスは、市場堅調による内装工事と家具組立て案件の増加により、増収

(百万円)	FY2023.9 Q1	FY2024.9 Q1	増減額	YoY	通期 業績予想	進捗率
売上高	3,023	3,214	+191	106.3%	13,540	23.7%
リペアサービス	1,105	1,145	+40	103.6%	4,550	25.2%
住環境向け 建築サービス ※1	817	過去 最高 940	+123	115.1%	4,010	23.5%
商環境向け 建築サービス	939	971	+32	103.4%	4,220	23.0%
商材販売	161	157	▲4	97.5%	760	20.7%

サービス区分別売上高の構成比



※1：2023年9月期より「抗ウイルス抗菌サービス」は「住環境向け建築サービス」に含む形で区分変更しています／前年同期も当該変更後の数値とし、前年同期比を算出しています

サービス別状況：リペアサービス

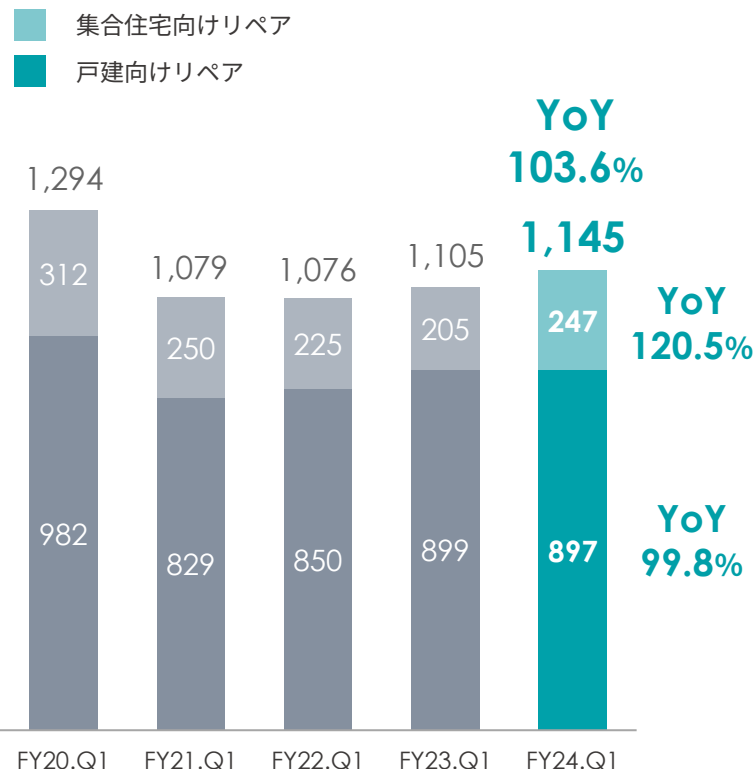
戸建向け

新設住宅着工戸数は前年同期で減少傾向(※1)であり、受注件数も前年同期比で微減しているものの、高単価案件の比率上昇により受注単価は前年同期を上回ったため、売上高は前年同期並みで推移

集合住宅向け

マンション市場の堅調(※1)と、グループ再編効果が顕在化しはじめ、技術者確保が改善傾向にあることで需要を着実に取り込めた結果、延べ人工数が増加、高単価案件の比率や一人当たりの生産性が上昇し、リペアサービス全体の売上高を牽引

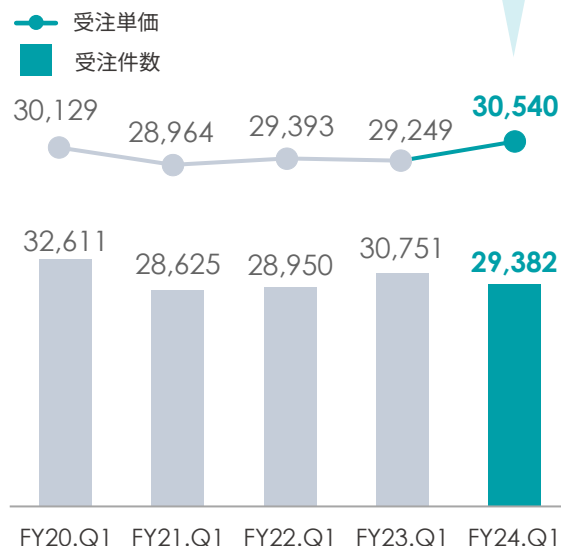
売上高の推移 (百万円)



主要KPI

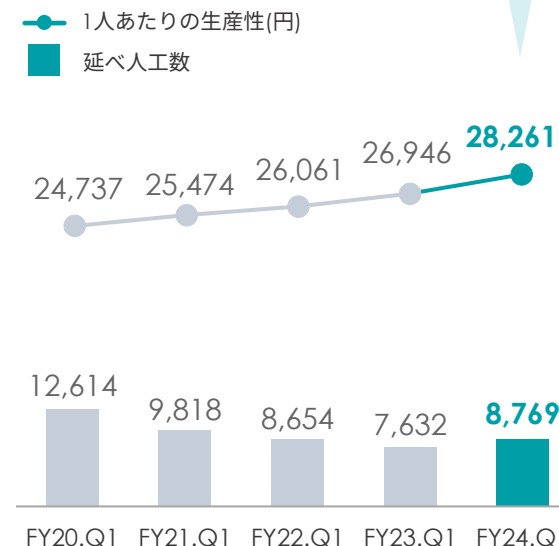
戸建向けリペア

受注単価 YoY 104.4%
受注件数 YoY 95.5%



集合住宅向けリペア

1人当たりの生産性 YoY 104.9%
延べ人工数 YoY 114.9%

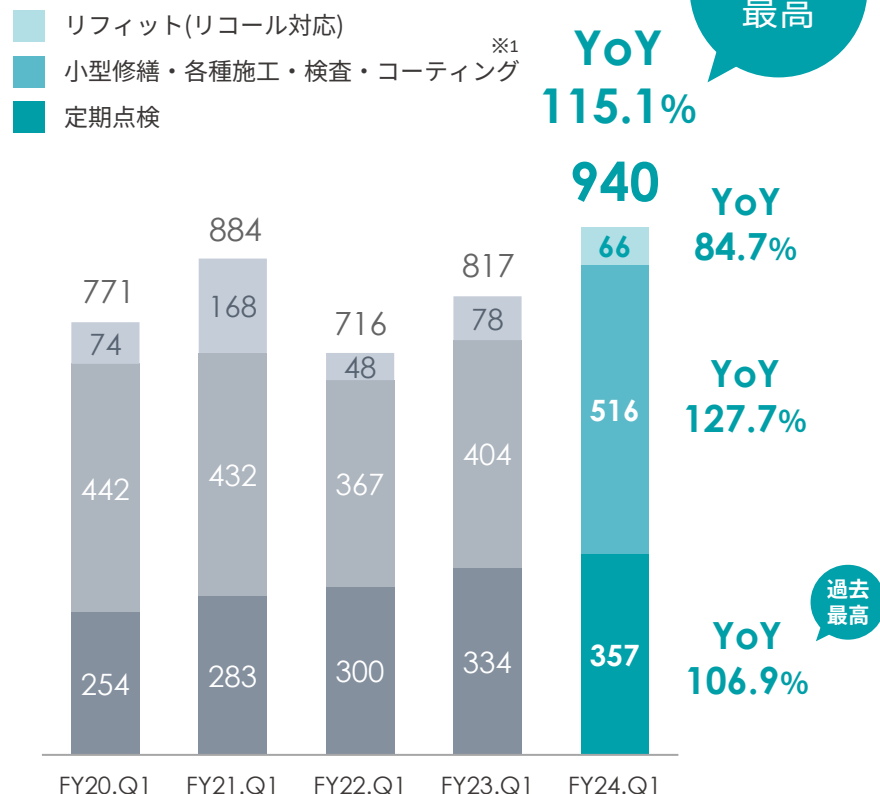


※1：新設住宅着工戸数 戸建住宅建築期間（着工から竣工までの平均6カ月前）を考慮した前年同期比（2023年4月～2023年6月）91.0%（出典：国土交通省） / マンション建築期間（着工から竣工までの平均12カ月前）を考慮した前年同期比（2022年10月～2022年12月）107.3%（出典：国土交通省）

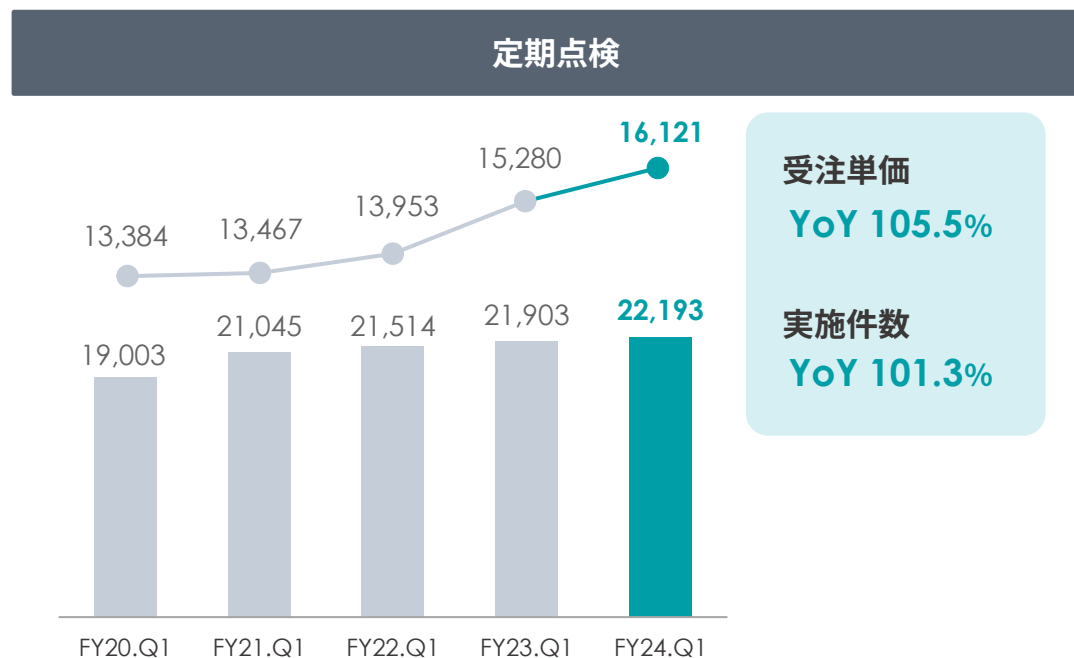
サービス別状況：住環境向け建築サービス

- ・マンション市場の堅調と、グループ再編効果が顕在化しはじめ、技術者確保が改善傾向にあることで需要を着実に取り込めた結果、集合住宅の引渡し前検査が増加し、また、FY23.9より好調な「水まわりコーティング案件」を着実に積み上げたことにより、住環境向け建築サービス全体の売上高は、Q1としては過去最高を更新
- ・定期点検は、実施件数は前年同期並みで推移したものの、契約単価が依然として上昇傾向で推移しており、Q1としては過去最高の売上高を更新

売上高の推移 (百万円)



主要KPI



累積管理戸数
FY2024.Q1

563,977戸

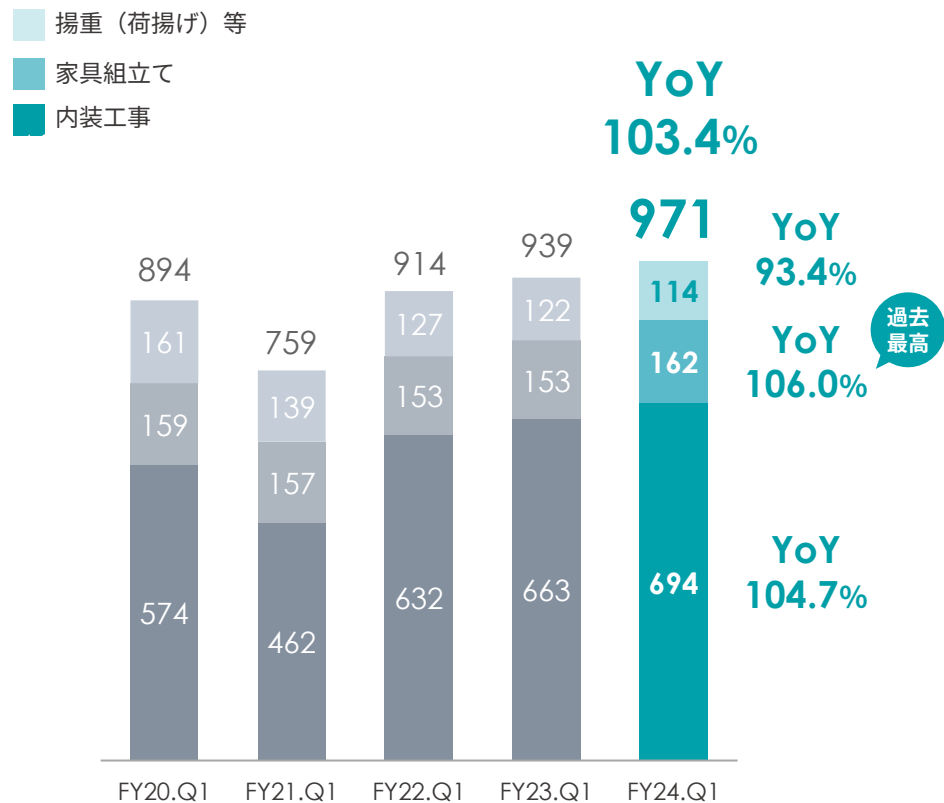
前期末比102.1%で
順調に推移

※1：2023年9月期より「抗ウイルス抗菌サービス」は「住環境向け建築サービス」に含む形で区分変更しています／他の事業年度も当該変更後の数値とし、前年同期比を算出しています

サービス別状況：商環境向け建築サービス

- ・商環境市場の需要堅調により、店舗・商業施設の内装工事やメンテナンス案件の増加、また、家具量販店からの組立て案件が増加し、商環境向け建築サービス全体の売上が伸長
- ・Q1としては、家具組立ての売上高において過去最高を更新

売上高の推移 (百万円)



内装工事の案件規模別売上高

(百万円)	FY2023.9 Q1	FY2024.9 Q1	増減額	YoY
売上高	663	694	+31	104.7%
大型 1,000万円以上	228	203	▲25	89.1%
中型 500~1,000万円未満	67	76	+8	113.4%
小型 500万円未満	367	414	+47	112.8%

取引先上位 20 社

	リペア サービス	住環境向け 建築サービス	商環境向け 建築サービス	商材販売	主な取引内容	前期末 時点での 順位
1 イケア・ジャパン株式会社			●		家具組立て（全店舗）	2
2 一建設株式会社	●	●		●	検査／リペア 定期点検／点検後のメンテナンス お手入れキットの販売	1
3 株式会社エムクリエイツ			●		店舗・商業施設内装工事／メンテナンス	3
4 清水建設株式会社	●	●			検査／リペア	★
5 株式会社サカイ引越センター	●	●	●		コーティング／リペア オフィス内装工事	5
6 アイリスチトセ株式会社			●		オフィス内装工事	10
7 株式会社一条工務店	●	●		●	リペア／リペア商材の販売	6
8 株式会社丹青社	●		●		店舗内装工事／リペア	8
9 加賀テクノサービス株式会社			●		店舗改装工事	★
10 株式会社総合デザイン			●		商業施設内装工事	4

上位11～20位

株式会社ハンディ・クラウン / 株式会社アイ工務店 / タクトホーム株式会社 / 株式会社セイアローズ / 住友不動産株式会社 / 株式会社セレコーポレーション
YKK AP株式会社 / 森ビル株式会社 / 株式会社ドラフト / セキスイファミエス近畿株式会社

★ FY2024.9 Q1で新たに上位10社にランクインした取引先

施工体制の方針 と 自社技術者数・協力業者数の推移

方針

採用強化と多様な労働力の確保

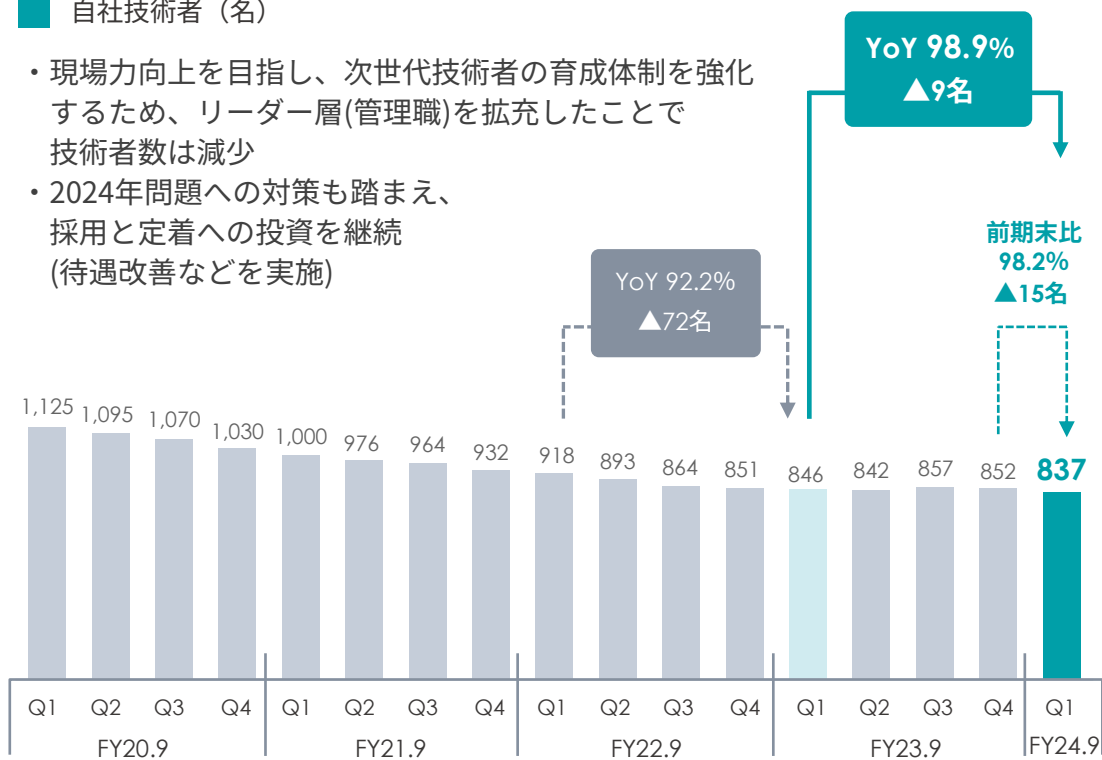
- ・ 自社技術者と外部戦力(協力業者・FC加盟店・アライアンス先)の全方向で拡大
- ・ 自社技術者を現場管理者へと育成し、品質管理レベルを維持
- ・ リテンション施策の推進

技術者採用と定着への投資を継続／協力業者は順調に増加しており、労働力全体としては増加傾向

自社技術者数の推移

■ 自社技術者 (名)

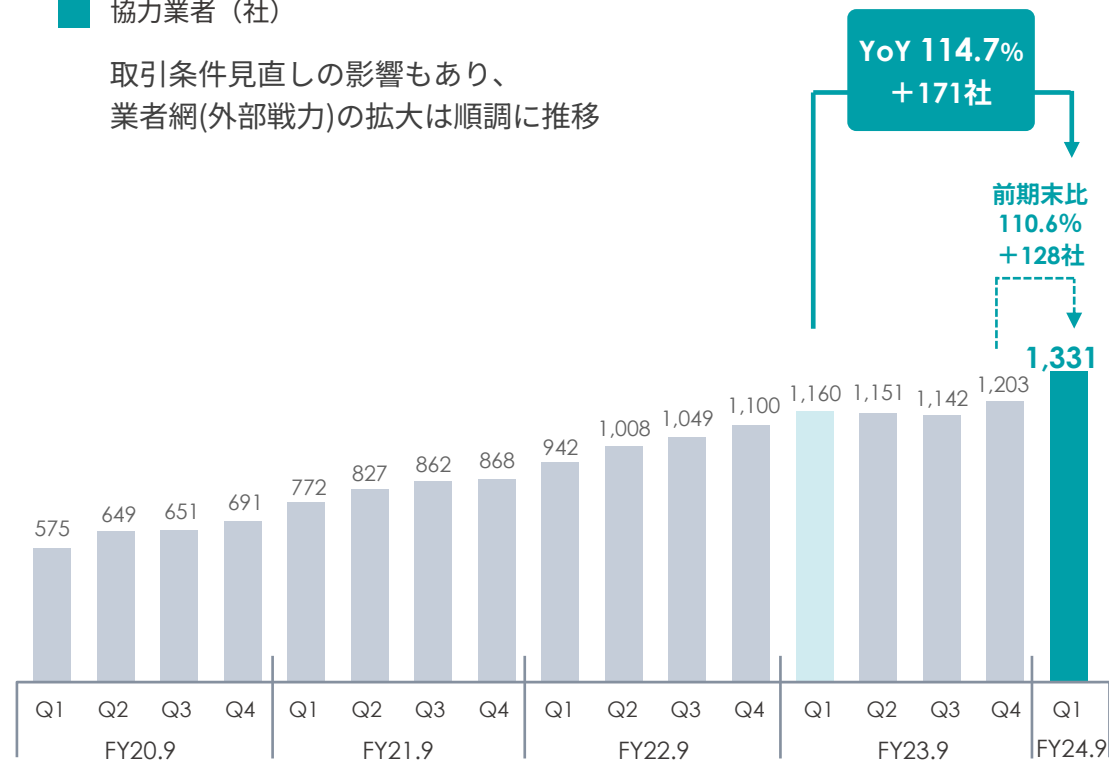
- ・ 現場力向上を目指し、次世代技術者の育成体制を強化するため、リーダー層(管理職)を拡充したことで技術者数は減少
- ・ 2024年問題への対策も踏まえ、採用と定着への投資を継続(待遇改善などを実施)



協力業者数の推移 ※1

■ 協力業者 (社)

- 取引条件見直しの影響もあり、業者網(外部戦力)の拡大は順調に推移



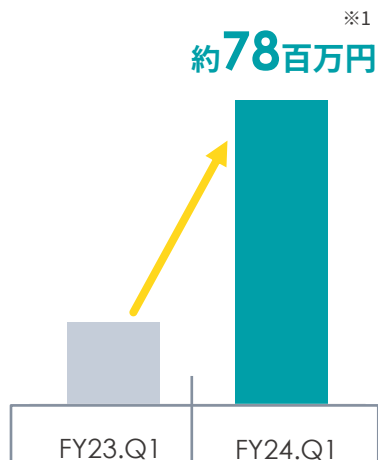
※1：協力業者数にFC加盟店数を含めています (FC募集を開始したFY2021.9 Q1から、FC加盟店数を含む数値に変更)

2025年9月期 目標売上高10億円 の事業シナジー創出に向け、推進中
2024年9月期は、目標売上高 6億円を目指す

足元の取り組み

売上高 (FY2024.9 Q1)

水まわりコーティングの好調継続で、前年同期を上回る進捗



※1 サカイ引越センター社単体の売上高ではなく、シナジー効果による売上高

引越付帯サービス

引越時の付帯サービスとして採用いただいている、水まわりコーティングが当期Q1も引き続き好調



キッチン、風呂場、洗面やトイレ など

オフィス内装工事

オフィス移転に伴う付帯工事で連携を強化中



今後想定している取り組み

引越付帯サービス

家具の解体・組立

人材交流の促進

事業ノウハウを共有し外部戦力として労働力確保を推進

顧客基盤活用の促進

両グループの顧客基盤に対して相互送客

03 FY2024.9 業績予想

全サービス堅調予測による売上高の伸長で、過去最高売上高、営業利益を目指す

売上

- ・住宅市場は、新設住宅着工予測により横ばい想定、商環境市場は市況と取引先の動向から当社グループの受注環境は良好想定
- ・2024年問題による工期長期化などの影響が懸念されるが、労働力の確保（自社技術者の採用強化、協力業者・FC戦力化）営業強化による受注増加を想定

費用面

- ・業務改善、賃上げなど人への投資などによる費用の増加を見込む

(百万円)	FY2023.9	FY2024.9 予想	増減額	YoY
売上高	12,309	13,540	+1,230	110.0%
リペアサービス	4,338	4,550	+211	104.9%
住環境向け建築サービス ※1	3,468	4,010	+541	115.6%
商環境向け建築サービス	3,862	4,220	+357	109.3%
商材販売	639	760	+120	118.8%
営業利益	452	493	+40	109.0%
経常利益	441	486	+44	110.0%
当期純利益	224	230	+5	102.4%
のれん償却前当期純利益	416	422	+5	101.3%
ROE ※2	8.6%	8.2%	—	▲0.4pt

※1：2023年9月期より「抗ウイルス抗菌サービス」は「住環境向け建築サービス」に含む形で区分変更しています。

※2：2024年9月期のROEは、上記の当期業績予想による予想純資産額に基づき算定しています

配当金		FY2023.9	FY2024.9予想
FY2024.9 予想 前期(FY2023.9)から 1株当たり 中間、期末とも 1円増配し、年間配当8円 を予定	中間	3円	4円
	期末	3円	4円
	年間配当	6円	8円

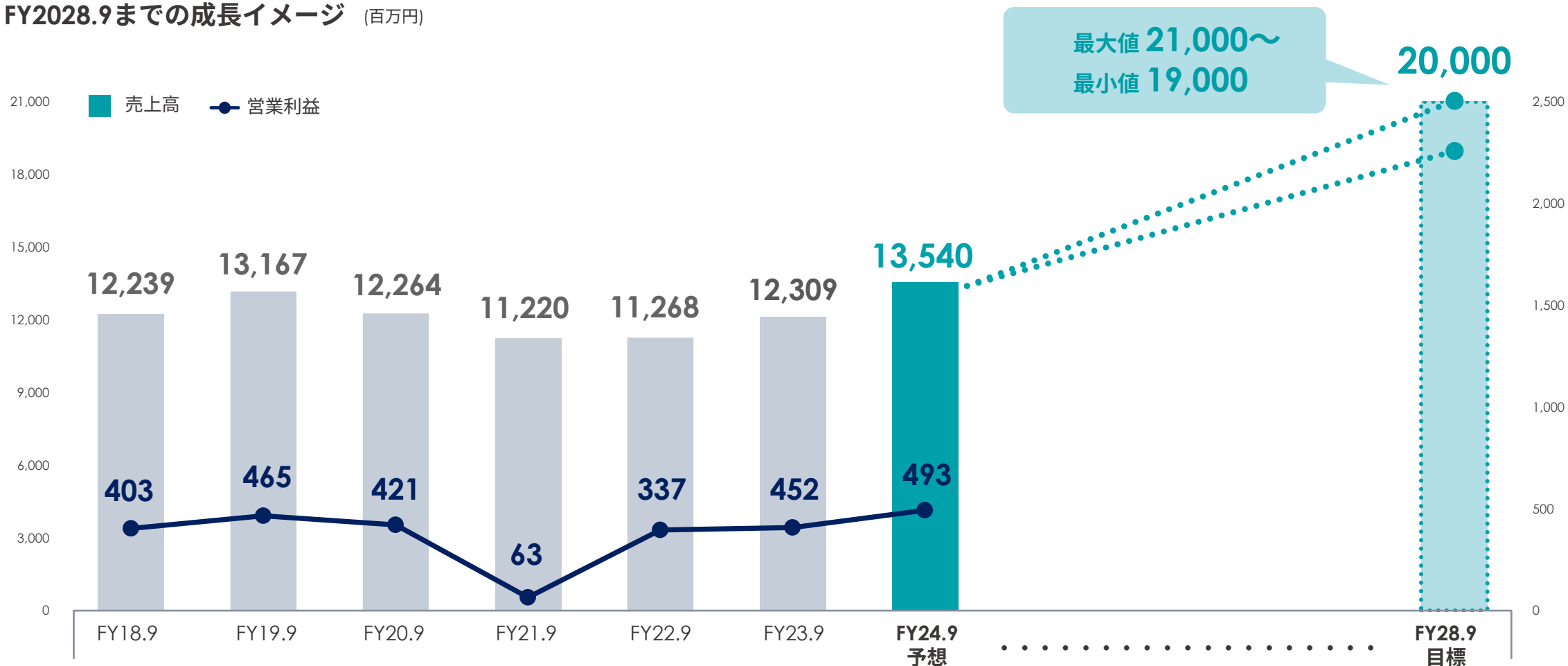
株主優待制度	保有株式数	株主優待
対象株主様お一人につき、保有株式に応じて 右記の金額のQUOカードを贈呈	200株以上、2,000株未満	QUOカード 3,000円分
	2,000株以上、6,000株未満	QUOカード 4,000円分
	6,000株以上	QUOカード 5,000円分

※現時点で株主優待制度の変更予定はありませんが、今後の経営成績により変更する可能性があります

| 04 今後の方針

コロナ禍前の成長路線に回帰させ、FY2028.9の売上高200億円を目標とし、事業成長を目指す

FY2028.9までの成長イメージ (百万円)



需要動向 (2028年まで) ※1

当社グループの課題

住宅市場



- ・新築市場での競争加速
- ・ストック市場での収益化に向けた動きが徐々に強まる想定

新築市場は
下降トレンド



新設住宅着工戸数 2030年には74万戸まで減少

メンテナンス
リフォーム市場は
堅調推移



リフォーム市場規模 2030年には7兆円

商環境 市場



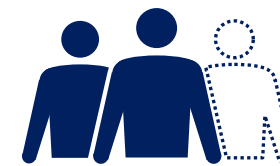
商業関連の内装施工需要は
堅調・拡大見込み

(商業施設・ホテル・オフィスなど)

国内旅行需要
インバウンド需要
回復の見込み



再開発や建物の老朽化による
建て替え
メンテナンス需要



労働人口減少
による
建築技術者不足

賃金上昇

世界情勢

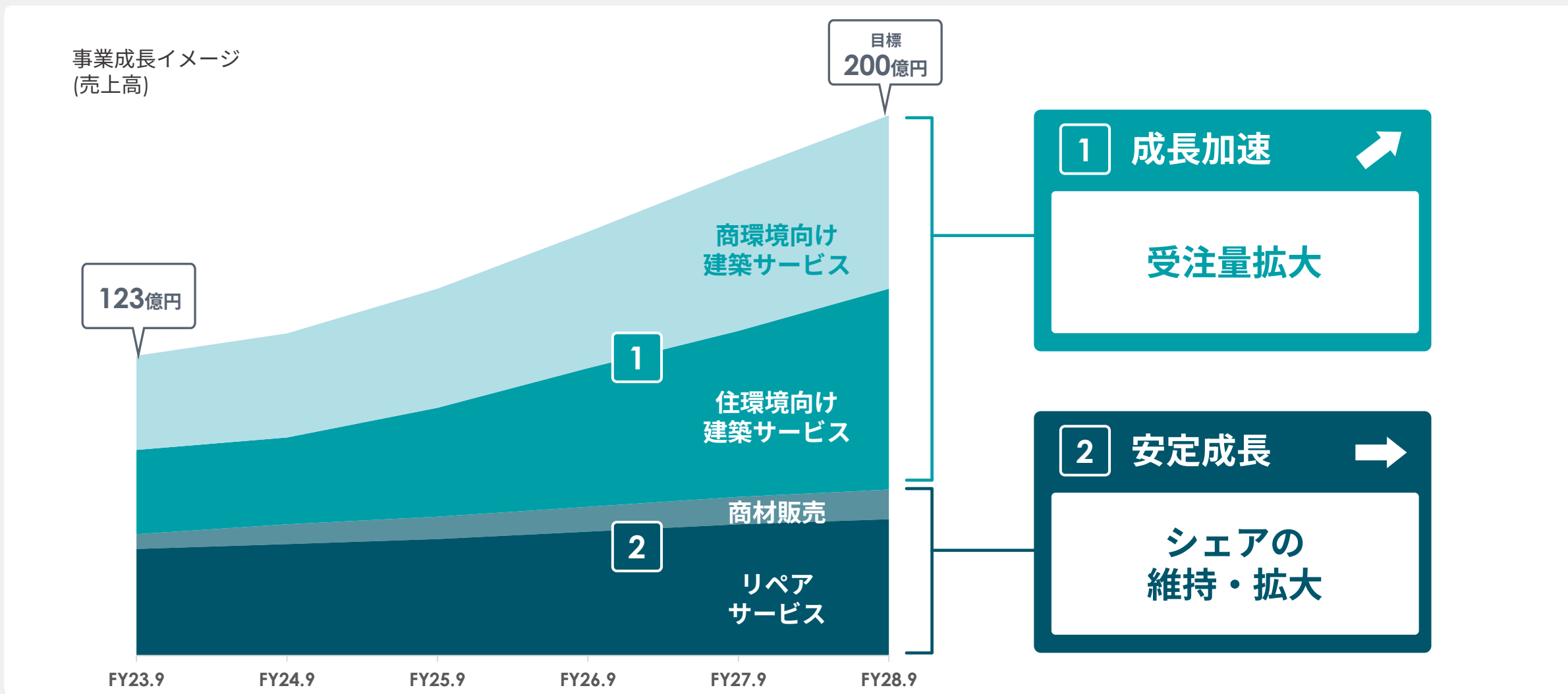
インフレ継続／中東・ウクライナ紛争など不安定な世界情勢

国内

2024年問題／デジタル化加速／働き方・生活スタイルの多様化

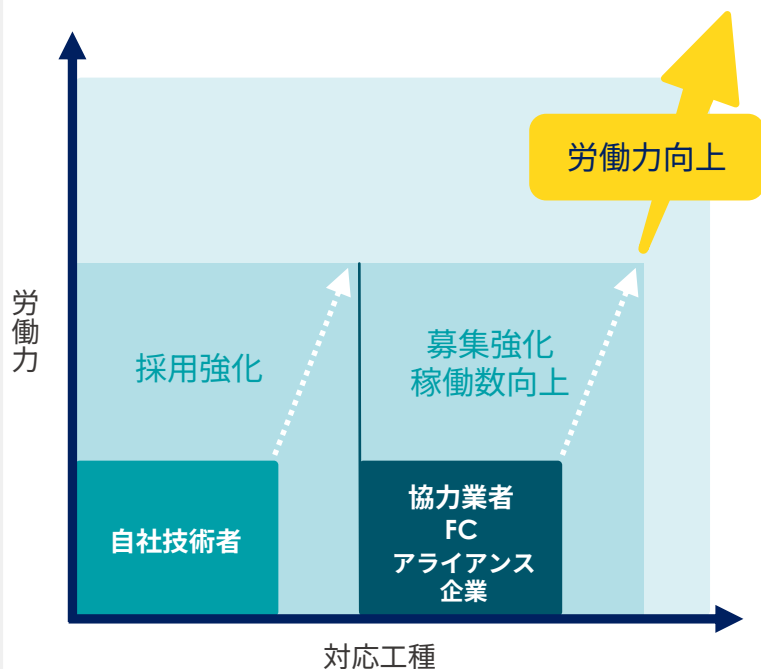
※1 出典：新設住宅着工戸数、リフォーム市場規模(狭義)...株式会社野村総合研究所による予測値 / 現時点での当社見立ての今後の市場環境予測です / 取引先の需要動向、取引先・業界企業の決算開示情報などを参考としています

主力サービスの安定成長と、成長を期待するサービスの販売強化で収益拡大



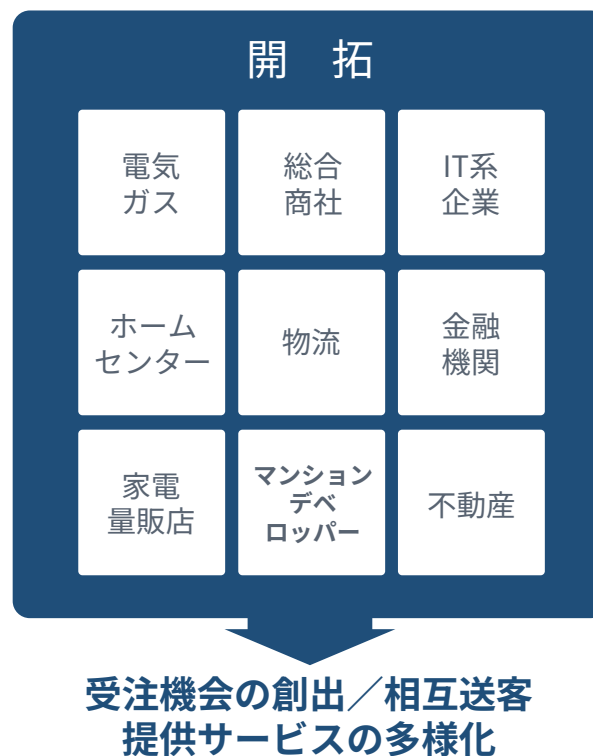
1 労働力・施工力の拡大

- ・ 自社技術者、協力業者、FCの全方向で労働力を拡大
- ・ 労働力の効果的・効率的活用
- ・ 施工管理者の採用、育成強化



2 アライアンス 業務提携の推進

住生活を軸とした事業展開をしている企業、全国での施工体制を確保しようとしている企業などとのアライアンスや業務提携の推進



3 人的資本経営への 取り組み強化

人的資本への投資を進め、グループ自体が持続的に成長していけるよう、人的基盤の強化を推進

待遇改善

教育・研修の充実

ワーク・ライフ・バランスの
推進

多様性の確保

など

| 05 Appendix

グループビジョン

全ての建物に“キャンディル”

事業の軸

人々が抱える建物に対するストレスを解消し、安心・快適な環境づくりに貢献する

会社概要

会社名	株式会社キャンディル
本社所在地	東京都新宿区北山伏町1-11 牛込食糧ビル3階
代表者	代表取締役社長 林 晃生
設立	2014年8月7日
決算期	9月
資本金	561百万円
従業員数	1,194名 (連結：臨時従業員を含む)
拠点数	52拠点 (連結)

事業概要

戸建て・集合住宅・商業施設などあらゆるフィールドで「建築サービス関連事業」を展開

- ・リペアサービス
- ・住環境向け建築サービス
- ・商環境向け建築サービス
- ・商材販売

グループ会社 (100%子会社)

株式会社バーンリペア
株式会社キャンディルテクト
株式会社キャンディルデザイン
株式会社キャンディルパートナーズ

戸建て・集合住宅・商業施設などあらゆるフィールドで「建築サービス関連事業」を展開

建築サービス関連事業の単一セグメントからなり、建物の「修繕・改修・維持・管理」に資するサービスを提供

	リペアサービス	住環境向け建築サービス	商環境向け建築サービス	商材販売
	<p>建材のキズ補修</p>	<p>既存住宅の定期点検メンテナンス</p>	<p>商業施設・オフィスなどの内装工事</p>	<p>メンテナンス材の販売</p>
メイン市場	<p>住宅市場 (新築)</p>	<p>住宅市場 (アフター・ストック)</p>	<p>商環境市場</p>	<p>住宅市場</p>
提供タイミング	住宅竣工時/引渡し前 (建築の最終工程)	住宅引渡し後 アフター・ストック期間	新・改装/移転など 建物の内装が替わる時	EC/ホームセンター 量販店で販売
売上構成比	35.6%	29.3%	30.2%	4.9%



自社技術者
837 名



協力業者・FC加盟店
1,331 社



拠点数
全国 **52** 拠点

「建築関連事業者」と「住宅・商業施設・オフィス等のオーナー」の双方に向けてサービスを提供

B to B to C のビジネスモデル

CANDEAL グループ

建築サービス関連事業

リペアサービス

住環境向け 建築サービス

商環境向け 建築サービス

商材販売

クライアント (建築関連事業者)

住宅関連事業者

ハウスメーカー / パワービルダー
建材メーカー / デベロッパー
リフォーム業者 / 一般エンドユーザー

商環境関連業者

店舗内装業者 / チェーン店舗
商業ゼネコン / 家具メーカー
ホテル事業者

エンドユーザー



個人住宅
(新築 / 既存)



商業施設、店舗
ホテル・オフィス
その他施設



サービス提供

免責事項

本資料は、株式会社キャンディル（以下「当社」といいます。）が当社及び当社グループ会社（以下総称して「当社グループ」といいます。）の企業情報等の提供のために作成したものであり、国内外を問わず、当社が発行する株式その他の有価証券の売買等の勧誘をするものではありません。

本資料に、当社又は当社グループに関連する見通し、計画、目標等の将来に関する記述がなされていますが、これらの記述は、一定の前提（仮定）をもとに、本資料の作成時点において当社が入手している情報に基づき、その時点における予想等を基礎としてなされたものです。これらの記述又は前提（仮定）は、客観的に不正確であったり、又は将来実現しない可能性があり、そのため将来の見通しと実際の結果は大きく異なる可能性があります。

CANDEAL